外国語教育リーディングスクール推進計画

R7

1．R7年度の研究について

① 研究主題

「英語で自分の考えを積極的に伝え合うことのできる児童の育成」

～表現や言語の定着を目指した帯活動の工夫を通して～

② 仮説

仮説1　学年に応じて言語活動の設定を工夫し，継続的に取り組めば、児童の英語発話量が増え，英語で伝え合う力が高まるであろう。

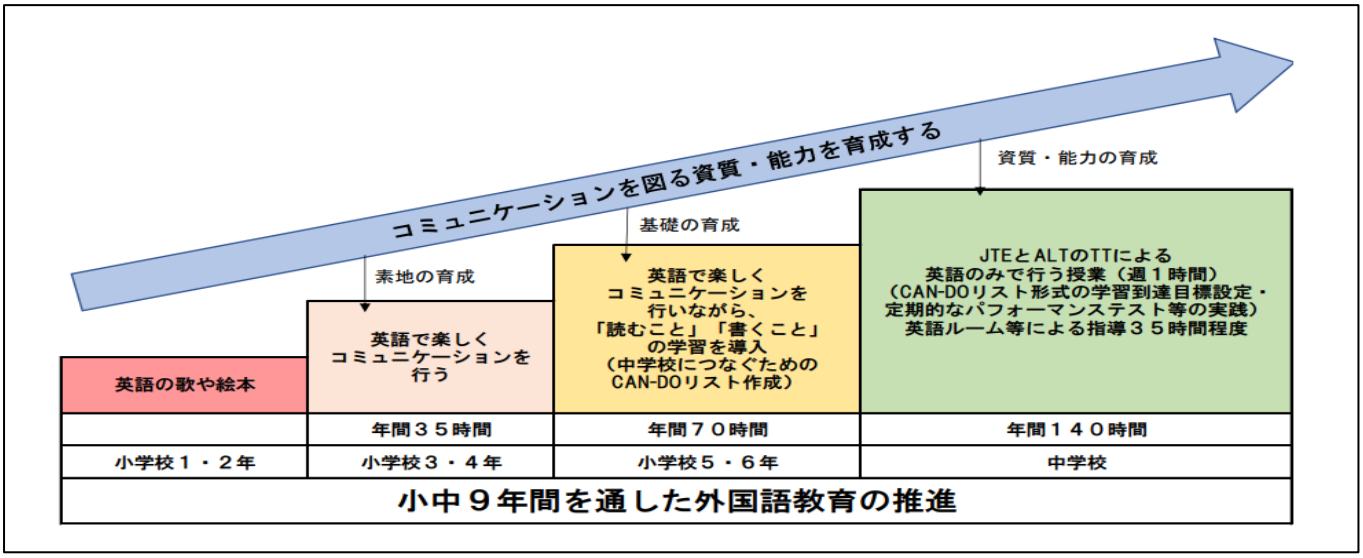
仮説2　指導方法，教材・教具及び評価方法を工夫すれば，児童の英語に対する関心・意欲が増し，他者とコミュニケーションを図ろうとするであろう。

③ 着眼（案）

着眼1　外国語に対する関心・意欲を高める教材・教具・指導・評価における工夫

着眼2　各学年に応じた言語活動の工夫（帯活動）

④ リーディングスクール（小中９年間のイメージ）



○小中連携の各学年の捉え

・低学年は９年間を見通して　早いうちから英語好きを育てる。

・中学年は外国語活動の言語活動を通してコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育てる
単元としては，コミュニケーションではない活動も多いが Small Talk を活用して教師側が意図的にコミュニケーションが取れる活動を設定する。

・高学年は外国語科の言語活動を通してコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育てる
Can-Do リストを活用し，教師も児童も年間の見通しをもつ
中学のよい教材・指導を取り入れる（Picture Describing や Talk Time パフォーマンステスト）など
小中連携出前授業・オンライン授業

⑤ ゴール像（児童の姿）【高学年の例】

・知っている英語（既習の言語材料）を使って，自分の考えを，失敗を恐れずに進んで話すことができる児童

きれいな花火がみたい！と言いたい！

→ I want to see beautiful fire flower!（文法や語彙のミスはあっても友達やＡＬＴには思いが伝わっている）

→ 英語を使ったコミュニケーションを楽しんでいる様子

・何といってよいか分からないとき、日本語で質問や確認をしたり、新しい単語や表現を学んだりする児童

・対話するときに聞き手として、リアクション（Nice! Me too. I see.）をする児童

・相手が沈黙しているときに教えたり質問したりして、対話を続けようとする児童

２．推進委員会各部会の役割

① 校内研究組織

【英語教育リーディングスクール推進委員会】

≪推進委員長≫　　≪研究主任≫

① 研究・研修部

◇研究・研修内容の検討・計画立案
◇評価・評定研修（高学年）
◇CAN-DO リスト指導計画立案

② 環 境 部

◇掲示物作成・掲示
◇環境整備計画
◇紀要の印刷・配布

③ 調 査 部

◇児童及び職員の意識調査
◇調査実施及び集計・分析

学年 部会	１年	２年	３年	４年	５年	６年	７年
研究・研修部							
環境部							
調査部							

３．研究授業・公開授業について

・公開授業は１２月５日（金）に実施予定

・低・中・高学年で１クラスずつ計３クラスを公開

4．各学年の授業・時間割について

① ALT について，1～6年生の全学年で関われるように検討しています。

② 授業内容・打合せについて

今年度の研究では、授業のレッスンプランの中に帯活動としてペア活動をする時間を設けていただきたいです。例えば、4年生で Talk Time という名前で、イラスト（教科書のイラストなど）を見ながら、5 分間（1分でもよい）ペアで対話する活動を設定するとします。話す題材を変えながら（同じでもよい）毎時間、継続的に取り組むことで、表現や言語の定着につながると考えています。

今年度から、北九州市の作成したハンドブックが全市一斉実施となりました。3・4年生は、ファンタイム、5・6年生はパフォーマンスタイムを年に3回実施していただきたいです。ファンタイムやパフォーマンスタイムを年間の計画に入れ、教科書の学習内容は変えず、一つ単元における学習時間を調節して時間を捻出していただきたいです。

また、ファンタイムやパフォーマンスタイムを実施する際、動画を撮っていただき、評価をしていただきたいと考えています。児童の変容を記録することで、継続的なペア活動が効果的であったかを調査するためですが、児童のペア活動の様子を全校の児童で共有し、学校全体で積極的に伝え合うことへの意欲を高めていくためでもあります。動画だけではなく、昨年度と同様にアンケートもとります。

ALT と仲良くなるためや ALT におすすめの旅行先を話すためなど、目的・場面・状況を設定することで、英語を使う必然性を持たせることや対話のデモンストレーションを示す等, ALT の活用を積極的に活用していくと児童の成長につながると思います。

③ 具体的な取組

【前期】

① 外国語教育リーディングスクールの概要や趣旨を理解するための研修を実施し, 教職員の共通理解を図る。
② 英語の歌や豆知識を全校に流し, 毎日必ず全児童が英語を耳にする機会を設ける。
③ 校内の環境整備を行う。(学年・授業内容に応じた掲示物を作成, 掲示する。)
④ 児童・教員への英語に関するアンケート調査を行う。(スクールプランの指標あり)（4月～5月）
⑤ 前期の反省や改善点を踏まえて、各学年において英語体験活動や外国語活動, 外国語科の授業実践を行う。

【後期】

① 研究授業の実践
・校内での互見授業や, 北九州市型ハンドブックを活用した外国語教育リーディング公開授業を行う。
・他校のリーディングスクールの公開授業にも, 職員を募り参加し, 参観する。
② 後期までの反省や改善点を踏まえて、各学年において英語体験活動や外国語活動, 外国語科の授業実践を行う。
③ 来年度に向けて研究の見直し, 修正を行う。